

熊 事 研 会 報

第110号

平成25年3月19日

発行人 熊本県学校事務研究協議会

会長 藤川 英一

編集代表 研究部長 平木 雅万

〒869-4601 八代郡氷川町今 39

TEL0965(62)2525 FAX0965(62)4460

- ・会長挨拶
- ・第27回全事研熊本大会
実行委員長挨拶
- ・全事研セミナー参加報告
- ・平成24年度末退職者か
らのメッセージ
- ・編集後記



この一年を振り返って

熊本県学校事務研究協議会 会長 藤川英一

年度末を迎え会員の皆さまには何かとあわただしい毎日をお過ごしのことと拝察いたします。

はやいもので今年度も残すところあと僅かとなりました。会長という大役をお引き受けしてから一年が経とうとしています。自分の力のなさ、至らなさを痛感する一年でしたが、会員の皆さまのご協力をいただきまして、県大会を始め今年度の熊事研活動も無事予定通り行うことができました。心より感謝申し上げます。

さて、県大会の挨拶の中でも申し述べたことですが、今年度は平成27年度に本県で開催される第47回全国公立小中学校事務研究大会に係る諸準備の初年度、基礎固めの年と位置づけました。そこで今回は全事研熊本大会へ向けての進捗状況等を改めてご報告をいたします。

これまで、全国大会開催に係る準備委員会での3回の協議を経て、12月の第3回理事会におきまして正式に第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会「実行委員会」の設置を決定いたしました。すでに会報や全事研熊本大会便り第1号等を通じて、何度かお知らせしているところですので、すでにご存知のことかと思いますが、その委員長には熊本市立五霊中学校の宮本和明さんに就任していただくこととなりました。準備委員会からの推薦を経て10月に行われました臨時理事会において承認していただいたものです。宮本さんは平成23年度から平成24年度の2年間、この熊事研の会長を務めていただいた方であり、人格識見ともに優れた方であることは皆さまもご存知のとおりだと思います。重責を担っていただくこととなりますが、全国大会成功に向けて力を発揮していただけるものと確信しています。

また、県下各地区に実行委員を募りましたところ、たくさんの方からお申し出をいただき、3月4日に開催しました第4回理事会におきまして、現在29名の方々の実行委員を承認いたしました。早速、宮本実行委員長のもと実働に入ってくださいこととなります。

なお、同じく第4回理事会におきまして、これまで4年間にわたって研究部長を務めていただきました平木雅万さんに代わり、新たに甲佐町立甲佐小学校の内田貴博さんを研究部長として選出いたしました。平木研究部長には長い間、本研究協議会の発展にお力を注いでいただき本当にありがとうございました。これからは全事研熊本大会の副実行委員長として活動していただきます。新研究部長の内田さんはこれまでも研究部員として、また、平成23年度全事研鳥取大会での熊本県の発表チームの要として活躍してこられた方です。熊事研の研究推進に大いに力を発揮していただけるものと思っています。

最後になりましたが、この年度末でご退職を迎えられる先生方、熊事研に対する長い間のご貢献とご協力、誠にありがとうございました。賛助会員という制度もごございますので、これからも本研究協議会に大所高所からのお力添えをいただければ幸甚に存じます。今後とも益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

全事研大会熊本大会実行委員長決定！

平成25年1月25日に発行された『全事研熊本大会だより』でも掲載されていたとおり、第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会（平成27年開催）の実行委員長に熊本市立五霊中学校の宮本和明さんが就任されました。熊事研会員のみなさまへのあいさつを書いています。

第47回（平成27年度）全事研大会熊本大会に向けて始動します

全事研大会熊本大会実行委員長 宮本和明

実行委員長としての最初の仕事として、私とともに大会を運営するための核になっていただく実行委員を、会員の皆様から広く募集いたしました。

その結果、なんと17名もの皆様に、自ら手を挙げていただくことができ、第4回理事会において、実行委員として承認いただきました。前回の12名を加え、29名での船出となりました。今後、業務の状況等を見ながら、実行委員数増員をお願いすることと思いますが、まずは、このメンバーで、今までの経緯を踏まえつつ、総務・財務・記録・運営・広報・分科会担当等決めて具体的な行動をしたいと考えています。

また、この募集期間をとおして、多くの方に激励やねぎらい、今後へのご助言やご協力の言葉をいただきました。大変心強く思うと同時に、その職責の重さをあらためて感じた次第です。本当にありがとうございました。

実行委員募集のときに申しましたとおり、全国の仲間に来てもらえる、来た人にみんなに有意義だったと言ってもらえる、そんな大会を目指したいと思います。

また、運営とともに、研究発表についても大事な両輪となります。熊本大会のときは、全事研の第8次研究中期計画「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」～教育目標達成のため、学校経営ビジョンを実現～における2年目にあたります。年次テーマはカリキュラムで、主に地域教育経営やカリキュラムマネジメントについて九州各県から研究発表がなされると考えています。こちらにつきましても県事務研会長や理事の皆様と協議をしながら、より良い環境を整えて研究推進を図りたいと考えています。

先日東京で開催されました全事研セミナーの際に、九州各県の方と研究や参加体制についても意見交換をしてきました。九州全体で取り組む体制も強化していきたいと考えています。

平成27年8月5日（水）～7日（金）の一番暑い時季に、私たちにとっても一番暑い夏がやってきます。大会が成功するためには、私たち実行委員が最善の準備や参加しやすい環境づくりをするとともに、会員の皆様、一人一人が自らの意思で考え行動していける大会にしなければと考えています。子どもたちの、そして私たちの、より良き未来に向かってともに頑張りましょう。



第19回全事研セミナー報告

※ 平成25年2月22日(金)に東京都大田区民ホールで行われました『第19回全事研セミナー』の復講です。セミナーに参加された平木雅万研究部長に講演の概要や今後の展望を交えて書いていただきました。



全事研セミナーに参加して

研究部長 平木雅万

去る2月22日(金)に東京の大田区民ホールで開催された第19回全事研セミナーに参加しました。午前中に文部科学省の行政説明、午後からは全事研活動報告、九州大学大学院准教授 元兼正浩氏の「学校マネジメントの展開と学校事務」と題した講演、そのあと「これからの学校の在り方と学校経営戦略」というテーマでシンポジウムが行われました。今回は、元兼先生のご講演について、私の私見を交えながら報告したいと思います。

講演の概要は

- I 学校マネジメント(学校経営の概念)が必要とされるようになった背景とその必要性
- II 学校マネジメントにおける重要な要素(地域・保護者との協働も含める)
- III 学校経営に果たす学校事務の機能、事務職員の役割

講演は演習で始まり、

演習1 中央に何も書いてない楕円があるワークシートの楕円の中に「我が校の教育課題」と書いて、1分間でそこから連想する言葉を書いてくださいというものでした。私は、「職員の協働・職員組織・保護者の再教育・地域の教育力・授業改善」といった言葉を書きました。

演習2 中央の楕円に「学校」と書いて、皆さんならどんな言葉を思い浮かべますか。

演習3 「学校事務職員のメタファー(隠喩・暗喩)」→学校事務職員は、〇〇〇〇(のようなもの)である。そのころは・・・私の答えは、プロデューサーです。そのようにありたいと考えています。

マネジメントが必要となった背景とは、学校という組織が外部環境の変化に適応できなくなったことにあり、学校のビジョンとミッションを明確にし、組織として外部環境の変化に適応していく必要があると話されました。学校などの非営利組織のマネジメントには「こんな学校にしたいね」という夢を語り合い共有することが重要だと言われましたが、学校では、夢を語る時間も余裕もないのが現実です。

マネジメントにおける重要な要素では、ストックホルダー(内部社員)重視からステイクホルダー(利害関係者)重視への転換、「地域」を巻き込み、地域が支える学校づくりをしていくことが重要だと言われました。私も今後、地域住民が学校と関わることをきっかけに地域コミュニティの再生につながるような役割が学校に期待されているのだと考えています。

学校経営に果たす学校事務の機能、事務職員の役割については、学校内外の人と人をつなぎ、学校内外の情報をデータベース化し情報を「知」に高め共有化し伝承していくことが重要であると話されました。また外部評価(第三者評価)の効用について触れられ、よそ者をうまく使うこと(戦略としての評価)、事務職員の仕事に関わることで言うと、予算要求をする際に、外部評価者の意見をうまく使って予算を獲得することなどが考えられるのではないのでしょうか。

今年度から、私の勤務する氷川中学校では、事務職員の加配を受けて、「コミュニティスクールのマネジメント力強化に関する研究」を文科省の委嘱で行っています。加配された事務職員は町全体のコミュニティスクールの事務局として、今まででは考えられなかったような仕事をしています。今後、事務職員の仕事も大きく様変わりしていくことが考えられます。また、事務職員に求められることも社会の変化と、地域の特性によって違ってくるのではないかと考えます。私自身は、氷川町の職員であることにこだわって仕事をしたいと思っています。学校教育をまちづくりとの関連で考え地域のニーズを学校に反映できるような仕事が、残りわずかの事務職員人生で出来るよう努力したいと考えています。

退職者からのメッセージ

今年度末にご退職を迎えられる水俣市立第一中学校の松本秀久さんと、熊本市立麻生田小学校の坂本一博さんより、三十数年の学校事務職員としての歩みを振り返って、そして、私たち後輩へのメッセージを書いていただきました。



定年退職を迎えて

水俣第一中学校 松本 秀久

この三月末で定年退職をしますが、昭和50年に採用され、あつと言う間の38年間でした。

採用当時の公務員は給料も安く、ボランティアのようなものと人に言われ、ボランティアという言葉の響きに少しだけ使命感を感じ学校事務職員の採用試験を受けたものでした。

初任以来、小学校4校、中学校4校の計8校で勤務しましたが、それぞれの学校で多くの児童生徒や職員、保護者、地域の方々、教育委員会職員等との出会いがあり充実した学校事務職員生活でした。

勿論、学校事務職員との研究会での研修等が楽しい思い出としてたくさん残っています。

以前は、毎年管内の事務研で阿蘇のひのくに会館での一泊研修や県外研修などがあり、それに参加することが一番の楽しみにしていた時代もありました。

学校では一人職種なので、研修の折に事務職員同士で語らうことがストレス解消にもつながっていた気がします。

初任の学校は球磨郡の岩野小学校でしたが、私が初めての事務職員で、勿論引継ぎもなく、どんな仕事をしていいのかわからず、小さな学校でもあり暇を持て余して殆どの学校行事にも参加していたことを思い出します。写生大会があれば私も画板と筆を持って、子どもたちと一緒に絵を描いたり、課程内のクラブ活動でも一緒にソフトボールしたりしていました。

また、2校目と3校目では部活動の顧問も経験しました。まだ若かったためか、土日関係なく練習をしていましたが、その時の子どもたちとは大人になっても時々話をすることもあり、一番の思い出かもしれません。

この時の経験を生かして県事務研八代大会で「事務職員と部活動」というタイトルで司会でしたが初めて発表という経験をさせて貰いました。

近年、ゆとりが無くなり、仕事は多忙化するばかりで仕事に負担感を感じ始めたのは、年齢を重ねると同時に気力・体力（+記憶力）の衰えが来ているのではないかと思います。正に退職適齢期なのかもしれません。

これからの学校事務は大変でしょうが、チャンスでもあるかと思えます、学校運営に積極的に関わり、事務長制の獲得や学校事務の専門職として職の確立に頑張っただけならと思えます。

学校事務職員の皆様方、熊本県学校事務研究協議会の益々の発展をお祈りしています。平成27年度に開催される全事研大会熊本大会には是非参加したいと考えています、その時にお会いしましょう！ありがとうございました。



おもしろき、こともなきわれを、おもしろく

麻生田小学校 坂本 一博

振り返れば、あっという間の38年間だったし、60年の月日だった。初任の頃、30～40代の職員を、父や母と重ねて見ていた。その人達の年齢を遙かに超え、祖父や祖母みたい・・・と思っていた人達と、同じ歳になってしまっている。

気持ちは初任の時と、ほとんど変わらないまま？なので、あの頃の私の意識から現在を考えると戸惑ってしまうが、現実を受け入れなければならないようだ。まさに光陰矢のごとしである。

私は当時、漠然と60歳まで生きられればいいな・・・と思っていた。というのは、我が家の男達はあまりにも短命であり、父は38歳で結核で亡くなり、祖父は36歳でカミナリでなくなっていた。なので、私にとって60歳は、遙か遠い先のことに思えていたし、未知なる世界でもあった。ともあれここまでくると、私は2世代分長生きして、色々楽しめる運命と考えてもよさそうである。

さて、学校は教育行政の末端に位置し、教育機関としての独立した機能と、行政機関としての機能を有する。そうした中、教員は、学校の中で完結する仕事、「進級させる・卒業させる」といったことなどがあり、何をやっているのかがよく目に見える仕事である。給食調理員や、用務員の方々も同じ状況にあるといえる。

ところが学校事務は、行政職員として教育行政の末端に位置しているため、現場の情報を求められ、書類を提出する側であり、公金等を書類上扱うので、常にチェックされる側となる。しかもチェックする側は、仕事を共有したことがない人達がほとんどなので、我々がどういう状況で仕事をしているのか理解をしてはくれない。また、デスクワークがほとんどなので、他から見ると具体的には何をしているのかよくわからない。

また私たちは、市町村関係と県関係の2つのシステムを覚えなければならず、日々それを使いこなす必要に迫られる。使い方も微妙に異なっているため、当然ミスも多くなる。そのたびに、間違いを指摘される。つまり、「間違いがなく、当たり前」を常に要求されているのだが、そんな神業的なことができるはずもなく、「長年にわたって、指摘され続ける」ことにより、自尊心を傷つけられることになる。このようなことから、学校事務職員は、自分たちの仕事に自信を持つ、誇りを持つことがなかなかできづらい、そんな構造になっていると思う。

しかも、市町村や県庁の職員だと、その市町村のシステムや庶務事務システムの中で、仕事が完結できるようになっているし、現金の扱いも公金として、出納員、分任出納員が取り扱う等、法的にきちんと整備がなされている。

それに対して学校はどうだろう。市町村のそれぞれのシステムの他に、県庁の庶務事務システムとはほど遠い中途半端な旅費システムと、スターズなる、ほぼ一方通行のシステムなど、市町村と県の構造的な二重行政（注）の仕事を強いられている。しかも、給食費などの学校徴収金等、公金化しないと法に抵触する（総務省）といわれている現金の扱いも、何らの法整備もなされないままである。それぞれが中途半端で、なんでもありの、なんともいびつな形での業務を強いられている現実がある。

こうした中に、構造的な差別？と思われることが時折顔を出すのだから、学校事務職員の仕事は、過酷で精神衛生上誠によろしくない状況があるといえる。

しかし私は、学校事務職員が好きであり、学校事務という仕事が好きである。この職種に、私は不思議な魅力を感じてきた。

新採で何も解らなかつたとき、周りの学校の事務職員の方々から本当に優しく教えて頂いた。また、仕事で困ったとき、電話1本で丁寧に教えてくれる、事務職員の仲間がいた。そして、事務職員のことを考え、奮闘されている先輩事務職員の姿があった。

今から29年前、私はN町の小学校に赴任し、14年間過ごした。まずはその町の仕事に慣れることから始まるが、しばらくすると、この町ではとても仕事がやりやすい事に気づいた。そこには先輩の事務職員の方の努力で、学校財務取扱要領・学校文書取扱要領・学校備品取扱要領という学校という言葉が前に付いた要領が作られ、教育委員会の内規となっていた。

この町にいたとき、私は様々な経験をするようになる。

学校での事務は、それら三要領に基づいて行われ、特に財務の面では、学校が各課と対等の「僚」として財務規則に位置づけられていた。当然予算要求も学校から提出し、学校財務が私たち事務職員の中心的な職務であることを、実践を通して確信することができた。

月1回の町内事務研は、今でいう共同実施組織のようで、いつも仕事上の情報交換を行っていた。各学校の施設見学等も行い、町内の学校施設の状況を共有していた。工事等は大金を要することなので、教育委員会としてのマスタープランは当然あるのだが、そこに学校現場の意見を反映させるため、私たちから考えた工事関係のマスタープランを作成し教育委員会に提案していった。

2校目は中学校だったが、小学校からの情報で、車いすの子どもが入学してくることがわかり、受け入れの準備をすすめた。手すりや、段差解消、多目的トイレ、そして、エレベーター設置の見積もりなどを行い、予算要求をし、築30数年の校舎を不十分ではあったが、なんとかエレベーターを含めバリアフリー化することができた。

また学校外では、国庫負担除外問題が起きたとき、県議会請願書を起草し、当時の県事研古沢会長、川上事務局長とともに紹介議員へ請願趣旨説明に行き、初めての県議会請願が採択された。

熊本県教育財政研究会を立ち上げ、我々の法的な位置づけがどのようになっているのか調べ、また、地方交付税制度、市町村予算、学校徴収金（1000世帯にアンケート調査）等、教育費を追いかけた日々があった。そして、その研究の成果を「熊本の教育費」「教育費」として、2冊の本にまとめることができた。

このように、学校事務という仕事を通して、おもしろい経験をたくさんすることが出来た。

そして、この町で過ごしたことが、学校事務職員の職務に係る法整備がいかに大切なことであるかを痛感し、2000年に熊本市に異動してからの法整備に取り組む原動力となった。大きな石を投げ込み、大きな波紋を立ててみた。当然かんかんがくがくの議論になる。方向性については何とか共通理解を得ることができたと思ったのだが、不十分ながらも形になったのは、学校財務取扱要綱だけであり、なかなか難しかった。その後の共同実施や職務標準表の流れの中で少しずつ法整備が進むことになる。

また、学校は異動がある事も魅力の一つである。いろいろな市町村や学校を経験することができる。また同じ学校でも毎年人が入れ替わり、常に新たな出会いがある。そして、その出会いは私に様々な刺激を与えてくれた。

今年のできごとでは、私が還暦だということで、RKK女子駅伝に参加する職場チームの監督を要請された。チーム名は「AKB48no3」（Aそうだ、Kかわいい、Bあ、48歳以上、3回目の出場、との事—これは私が名付けたのではなく、本人達が言っていることである。私は職員会での駅伝結果報告では、「Aそうだ、Kわいくて、Beautifulな先生方」と紹介しているので誤解がないように。）このチームはフルマラソンを走るアスリートを3人抱えているのだが、5人の年齢を足し合わせると、なんと270歳、平均年齢54歳である。元気がとても良く、明るすぎるくらい明るい人たちだ。そしてこの年齢で、373チーム中59位という素晴らしい成績をたたき出すのだから、

ただ者ではない。楽しい1日を過ごさせてもらった。

このほか、1976年～熊本市民劇場（私はミュージカルが大好きになった）。1978年～熊本落語長屋（年2回正統派の落語を、お寺の本堂で堪能した。この熊本落語長屋は数年前に解散し、今は、つばなれの会と名称を変え活動している）。1981年～熊本県学校事務労働組合へ加入（おびただし量の全国の学校事務に関する情報が入ってくるようになる）。1990年～電話カウンセリングのボランティア（養成講座に誘われ、11年間「熊本こころの電話」のボランティアを行った）。1999年～環境保全型農業技術研究会（環境保全型の米作りをはじめた。この米で、マイ吟醸酒を造ることが私の夢）。2009年～放送大学（臨床心理学を学ぶようになった）。これらはすべて、学校という職場で出会った人達が、私に引き合わせてくれたものであり、私の人生を豊かにしてくれていることからである。

定年退職を迎え、これまでの学校での様々な出会いが、これからも私の人生を楽しく、豊かなものにしてくれそうである。

学校事務職員であったことに、感謝、感謝である。

（注）2013.3.3付け共同通信によると、「教職員の給与負担は政令市に変更、義務付けの4次見直し案」と題した記事があり、「中央省庁が法令で縛る、義務付け・枠付け、の第4次見直し案が明らかになり、公立学校教職員の給与負担者を都道府県から政令市に変更するなど約40項目を挙げており、3月中旬に閣議決定する見通し」となってる。これが通れば、熊本市については2重行政から解放されることになる。この稿が出される頃には決着がついているかもしれない。

長い間、お疲れ様でした…
そして、ありがとうございました。



～編集後記～

1年間副担当をさせていただきましたが、あまり役には立たず、大変お世話に、そして勉強になりました。

（ S ）

あっという間に、慌ただしい3月がやってきました。一日が過ぎるのもとても早く感じます。会員のみなさんはいかがお過ごしでしょうか。今年は、花粉とPM2.5と黄砂のトリプルパンチで大変な方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、今回で今年度最後の会報発行となります。少しでも多くの会員の方に見ていただきたいと思い会報作成にあたりましたが、まだまだ不十分な点がたくさんあり、申し訳ないです。とてもよい経験となりました。しかし、お忙しい中にもかかわらず、記事を書いていただきました先生方、本当にありがとうございました。そして、会報を読んでいただいたみなさん、ありがとうございました。

今後とも熊事研会報をよろしく願います。

（ O ）